

災害事例

シールド工事の残土搬出用ホッパー上部の改修作業中、携帯用丸のこで右大腿部を切った

【災害の概要】

工事の種類：上下水道工事

災害の種類：切れ

被災者：死亡1名

【発生状況】

この災害は、シールド工事の地上部分にある土砂搬出設備のホッパー上部で、泥土飛散防止のための蓋を作る作業中に発生しました。

工事は、第一次の掘進が終了し、第二次の掘進を開始するための準備の段階にあり、この準備作業はシールド内からベルトコンベヤーで運ばれてきた残土がホッパーに落下する際に泥土が跳ねて飛散することを防止するため、上部開口部のベルトコンベヤー落下口及び監視カメラ部分を除き全面に栈木を付けたコンパネを敷き、釘を打ちつけ固定するものであった。

被災者は、当日の午前中からポッパー下部の清掃作業を行っていたが、午後2時頃終了したのでホッパー上部に上がってきたところ、職長から蓋の隙間の部分を塞ぐように指示された。

午後3時頃、職長とホッパー内にいた作業員がそこから作業用通路に出ようとしたとき、「わっ」という声が聞こえたので、声の方を見ると被災者が左手で激しく出血している右大腿部を押さえ、右手に回転したままの携帯用丸のこを持ったままベルトコンベヤーの端に立っていたのが発見された。

直ちに、被災者を救出し病院に搬送したが午後4時ごろ右大腿部動脈切断による出血性ショックで死亡した。

【原因】

- 1 携帯用丸のこの歯の接触予防装置が故障して、移動する歯の覆いが固定部分に入ったままになっていた。
- 2 ホッパーの開口部を覆う蓋を作るため、開口部の上にコンパネを置き形状に合わせて丸のこで切断をしていて、極めて不安定な姿勢で作業をしていた。
- 3 この作業を行う指示が曖昧で元請けから1次下請を通さず、直接2次下請に指示がなされ、作業方法を十分検討しないで、行われた。

【対策】

- 1 携帯用丸のこを使用する前に、歯の接触予防装置が確実に作動するか、点検すること。
- 2 携帯用丸のこには、歯の接触予防装置が、故意に固定されたり、故障により作動しなくなった場合に電源が入らないで、歯が回転しない製品があり、安全な製品を選択する。
- 3 作業を指示する時には、作業方法、作業手順における危険を調査し、その結果により危険のない作業とする。

参考 平成18年3月10日 指針公示第1号
「危険性又は有害性等の調査等に関する指針」



災害発生状況図